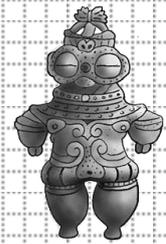


2013年8月

考古 No. 7

けんぱくものしりシート

や よい ど き 弥 生 土 器



つぼ おん が がわい 壺(遠賀川系※1)

かるまいまちぎみなり た よん い せき
軽米町君成田IV遺跡
やよい じ だい ぜん き
弥生時代前期

つぼ 壺

にのへし おおぶち い せき
二戸市大淵遺跡
やよい じ だい ぜん き
弥生時代前期

たかつき 高坏

にのへし おおぶち い せき
二戸市大淵遺跡
やよい じ だい ちゅう き
弥生時代中期

ふた 蓋

いちのせきし や ぎ しま い せき
一関市谷起島遺跡
やよい じ だい ちゅう き
弥生時代中期

かめ 甕

いちのせきし や ぎ しま い せき
一関市谷起島遺跡
やよい じ だい ぜん き
弥生時代前期



こちらに展示されているのは、岩手県内で見つかった弥生時代の土器です。

弥生時代は水田稲作が始まり、鉄などの金属製の道具が使用され始めた時代

としてよく知られています。稲作の技術は、今から2400~2500年前※2に中国

大陸から九州北部に伝わって以降、急速に東北地方まで広がりました。弥

生時代は米を食べる社会が日本列島の各地に成立した時代といえます。

このような社会の変化に伴って、使われる土器も変わっていきました。米

の調理や保存に適したものが主流となり、土器表面の文様も少なくなって

いきます。土器の焼き方が工夫され、質が良く割れにくいものへと改良が進

みました。それでは、いろいろな弥生土器を見ていきましょう。

※1 最古の弥生土器といわれる遠賀川式土器をまねて作られた土器を“遠賀川系”と呼びます。

※2 2800~3000年前という説もあります。

つぼ壺

くび ほそ なが ど き
首が細くて長い土器です。
しよくりよう ほぞん つか
食料の保存に使いました。



たとえば・・・

コメ、アワ、
ヒエ



ふい
マメ類
など

こめ どうじよう ど き
米の登場で土器
かわ
も変わったよ！



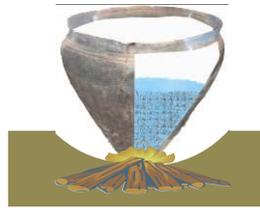
ふた蓋

ちようり
ふたをして調理すれば中までしっかり火
なか
が通ります。

ちようり つか ど き
調理に使う土器とセットで
しよくり つか
使用します。米を炊く際など
こめ た く
に必要でした。持ち上げやす
ひつよう も あ
い形をしています。

かめ甕

くち おお ひら ふか
口が大きく開いて、深さのあ
ど き に む
る土器です。煮る、蒸すなど
ちようり つか
の調理に使いました。



いえ なか ろ ちようり
家の中にある炉で調理をしました。



りようり なら
料理を並
べて食べ
ました。



たかつき高坏

さら あさ うつわ ぶ
皿のように浅い器（この部
ぶん つきぶ
分を“坏部”といいます）
たい の
を台に乗せたものです。料
り ども
理を盛るための土器です。

ところで、ここにある土器をよく見てみると何かに気が付きませんか。そう、ほとんどの土器に、縄文時代と同じような縄目の模様がついていますね。実は東北地方では、弥生時代に入っても縄文文化の影響が強く残っていたので、多くの弥生土器には縄目の模様が付けられていました。弥生時代の東北人たちは、豊かな自然とともに育んだ縄文時代の生活を保ちつつ、新しい弥生の文化を取り入れていったと言えます。

参考にした本『みちのくの弥生時代』大阪府立弥生文化博物館 1993年/『ジュニア日本の歴史①』小学館 2010年/『弥生土器I』佐原 真 1983年

らいげつ がつ
来月(9月)の
けんぱくものしりシートは
れきし
歴史一了だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>